

日本のマナーと習慣

動画リンク: <https://youtu.be/eJEKE0peMTU?si=1X4EUdXGTR8qyjfS>

今回は「日本のマナーと習慣」を学びながら日本語を勉強しましょう。

この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字にはふりがながあります。後半は少しだけ速く(+20%)なり、漢字にはふりがなはありません。学習にお役立てください。

■はじめに

マナーに似た言葉で「エチケット」があります。
マナーとエチケットは日本語にすると、どちらも「礼儀」を意味します。

マナーとは、社会全般やある集団において、特定の誰かではなく、みんなが気持ちよく過ごすためのちょっとした行動や思いやりです。

一方、エチケットは、特定の相手に対する思いやり、不快を与えない作法になります。

マナーとエチケットは、細かくみると少し意味が異なりますが、この動画ではわかりやすくするため「マナー」に統一します。

世界各国では、それぞれのマナーや習慣があります。

その国のマナーや習慣は、その国の文化ととても深く関係しています。

つまり、日本におけるマナーや習慣を学ぶことは、日本の文化を知ることにつながるのです。

ある国では、良いとされていることが、別の国ではマナー違反とされる場合もあります。

日本にはこんな言葉があります。「郷に入れば郷に従え」

これは「よその土地や環境・社会に入った場合には、たとえ自分の知っている習慣や風習と異なっていたとしても、そこでのやり方やしきたりに従ったほうがいろいろうまくいく」という意味です。

どの国であっても、その国を訪れたときは、その国の文化やマナー、習慣を尊重して、それに倣ったほうが、その国の人たちに歓迎されたり、喜ばれます。

結果的に、あなた自身も楽しく滞在することができるはずです。

これを知っておくことで、きっとあなたと日本の距離は縮まり、より貴重な体験ができることでしょう。

それでは、前置きはここまでにして、日本におけるマナーや習慣について、詳しく解説していきます。

■チップは払わなくてもいい

日本に、チップの習慣はありません。

日本では、チップを払わなくても従業員がしっかりと接客してくれます。

サービス料は支払う金額に含まれていると考えて問題ありません。

チップの習慣が当たり前の国から訪れた人は、チップをあげたくなるかもしれません。

しかし、日本ではチップを受け取る習慣がないため、あなたがチップをあげようとしても、従業員は困惑してしまいます。

■お辞儀について

日本では、初めて会う人や謝るとき、感謝を伝えるときなどに、頭を下げてお辞儀をするという習慣があります。

日本人がお辞儀をするようになったのは、中国から仏教が伝わった500-800年頃だといわれています。

もともと、お辞儀には「攻撃する意志がないこと」を伝える意味があります。身体の中で最も大切な部分である頭を相手に向かって下げ、戦うつもりがないことを表します。

日本のように日常的には行われないものの、中国や韓国を含むアジアの他の国々でもお辞儀をする文化は存在します。

しかし、欧米ではこのような習慣は見られず、電話で話している際にも目に見えない相手に対して、お辞儀をする日本のサラリーマンの姿に驚く外国の人もたくさんいるようです。

■時間を守る

日本では、公共の交通機関の運行スケジュールやビジネスの場面など、時間を正確に守ることが重視されています。

これは日本特有のマナーといえるでしょう。多くの国では、電車が30分遅れることや、レストランで注文した料理がなかなか出てこないことも珍しくありません。

しかし、日本では「5分前集合」と言われるように、時間に対する意識が高く、時間を守ることが非常に重要視されています。

日本を訪れた外国人の中には、1分単位で正確に運行する電車に驚く人も多いようです。

東京の多くの方は、待ち合わせ時間に5分や10分遅れると「時間にだらしない」と感じる人が多いので、注意してください。

ただ、日本の中でも沖縄県などでは「ウチナータイム(沖縄時間)」などと言われるように、1分どころか、待ち合わせに1時間遅れても怒る人はそんなにいません。

「沖縄の方は待ち合わせ時間に家を出る」という笑い話があります。これは、10時に待ち合わせをしたら、10時に家を出ることを表していて、家を出た時点で遅刻が確定しているという笑い話です。

もちろん、沖縄の人みんながそうであるということではありません。そのくらい沖縄の人たちの中では時間がゆっくり流れていることを意味しています。

■食事のときのマナー

代表的な食事のときのマナーをいくつか紹介します。

■■食前・食後の挨拶

食前の「いただきます」、食後の「ごちそうさまでした」といった挨拶も日本ならではのルールです。

「いただきます」は命をいただいた動物や植物、食事ができるまでに手間をかけてくれた人たちへの感謝の気持ちを表す言葉です。

「いただく」は「もらう」の謙譲語です。謙譲語とは、わかりやすく言うと「丁寧な言葉」です。

「ごちそうさまでした」は、動物や植物の命をごちそうになり、ごちそうを食べることができたことへの感謝を表しています。

■■食するときの姿勢

日本では、相手を不快に思わせない食べ方がかなり意識されている印象です。

その中でも、食するときの姿勢に関するマナーも知っておきたいポイントです。

まずは姿勢をきちんと正し、正しい箸の持ち方で食事をする事、そしてテーブルに肘をついたり片腕を下ろして食べるのはあまり良くないとされています。

■■お箸で食べ物を刺さない

お箸は挟むものです。お箸で食べ物を刺す行為は「刺し箸」と言われ、行儀が悪いこととされています。

特に、お茶碗に盛られたご飯にお箸を刺すと、仏様へのお供えと同じになってしまうことから、良くないこととされています。

■お箸からお箸で食べ物を受け渡さない

箸から箸へ料理を受け渡す行為は、ご遺骨拾いを連想させる縁起の悪い所作として、マナー違反とされています。

■お椀を持ち上げる

食事の際、茶碗は片手で持ち上げて食べるのが日本のマナーです。

ラーメンの丼や大きなお皿など、片手で持ち上げられないものはお皿に手を添えて食べるようにします。

海外では、お皿を持ち上げて食べる習慣がない、または日本とは逆にそれがマナー違反になってしまう国や地域もあるので、あくまでも「日本の食事マナー」として、覚えておくといいでしょう。

■食事は残さない

日本では、外食をするときや誰かにご飯を作ってもらった際に「食事は残さず食べる」のがマナーです。

完食することは作ってくれた人や食べ物に対する感謝を表し、また「もったいない」という日本人の精神からも「残さず食べることがよし」とされているようです。

韓国や中国では、以前は食事を残すことで食事をもてなしてくれた相手に対して「私はもう十分お腹いっぱいですよ」という気持ちを表すことがあるといえます。

逆に残さず食べてしまうと「食事が足りない＝もてなしが足りない」という印象を相手に与えてしまうという習慣があったそうです。

しかし、近年では「食べ物を残すのはもったいない」ということから、この習慣は薄れているようです。

韓国や中国の人は、もしよかったらそのあたりのことをコメント欄から教えてくださいね。

その他、日本では、「食べるときは口を閉じながら食べ、咀嚼音を最小限に抑える」「箸でお皿をたたかない」「手拭き用おしぼりで顔を拭かない」などのマナーがあります。

■ゴミは分別する

日本は他の国と比較すると、「細かくごみを分別しなければならない」という点に外国人は驚くようです。

地域によって細かいルールは異なりますが、燃えるゴミ・燃えないゴミ・ペットボトル・缶・ビン・ミックスペーパーなどと、分別してゴミに出すのが一般的です。

外国人にとっては、ゴミの分別だけでも大変なのに、牛乳パックの中身をすすいで洗ったり、ペットボトルのフタとラベルを分けてから捨てたりなど、捨てる人の細かい配慮があることにさらに驚く人も多くいます。

■ゴミをポイ捨てしない

日本はゴミ箱が少ない国にも関わらず、道端にゴミが落ちていない国です。

道端や道にある排水溝などにゴミをポイ捨てることはやめて、自分で出したゴミは持ち帰るか、ゴミ箱を見つけて捨てるようにしましょう。

■公共の場では騒がない

電車やバスの中では携帯電話で話してはいけません。海外では電車の中で電話で話すことはごく普通の光景ですが、日本ではマナー違反です。

さらに、優先席付近ではスマホの電源を切ることも大切です。

電話で話す場合は、電車を降りてから話すか、新幹線の場合だと、座席のある車両から出て人のいないデッキなどで電話しましょう。

たまに見かける電車の車内の光景は、電話に出て「すみません。折り返します」とだけ相手に告げ、電話をすぐに切っている場面です。

これは、「今は電車だから話せないけど、そのことだけでも伝えたほうが相手に対して失礼にならない」という考えからこうした行動になっています。

電車の中で隣の人と話すことと、電話で話すことはあまり変わらないのに、電話で話していることが分かったら、嫌がる日本人がとても多いです。

それを知っているため、私も電車の中では電話はしませんが、心の中では「なんで電車の中で電話をしてもいけないのだろう…」と感じています。

もしかしたら、もともと「公共の場で騒がしくしてはならない」という考え方があって、電話だと声が大きくなる人が多いため、いつの間にか「電車やバスのような閉鎖的な空間で電話をするのは良くないこと」という考えが定着してしまったのかもしれないね。

若者がBluetoothのイヤホンで音楽を聴いていたところ、その音が外に少し漏れていて、近くにいた人にポンポンと肩を叩かれて「音量が大きすぎるから小さくしてくれ」と指摘された。そういうシーンもたまに見かけます。

そういう指摘をする人はごく少数です。ほとんどの場合、明確なルールはありません。

ただ、ルールや理由とは関係なく、周りで不快な思いをする人がいるなら、その人を気遣うことが大事なことだと思います。

また、電車やバスなどでは、物を食べたりするのも良いことだとされません。

新幹線や夜行バスなどの長距離移動だと駅弁など楽しむことができますが、通勤・通学時など比較的近距离の移動の場合は避けたほうがいいです。

長距離はいいけど、短距離はダメ。このようなルールがあるわけではありませんし、日本人の私ですらなんだか不思議な感覚です。

ただ、短距離の場合、乗り降りする人が多いですし、長距離新幹線のように決まった席があるわけでもないため、混雑することも多いです。

「車内で人が動くことが多い」「混雑する可能性がある」そのようなシーンでは、基本的には、何か食べたりしないほうが良いと覚えておくといいかもかもしれません。

とにかく、日本人の多くは「知らない人に迷惑をかけない」「周りの人を不快にさせない」と考えている人が多いようです。

■■エレベーターの中

エレベーターの中でしゃべること自体は何も問題ないはずですが、日本人の多くの方は、エレベーターの中では無言になります。

これは「狭い空間で騒がしくしてはいけない」という考えからくるものだと思いますが、エレベーターのドアが閉まった瞬間、エレベーター内はとても静かな空間になります。

話すことは問題ありませんが、大きな声では話さないようにしましょう。また、エレベーター内で電話をすることは、一般的にはマナー違反となります。

たまにエレベーター内で会話をしている人たちを見かけますが、ものすごくヒソヒソ話をしている、個人的には「普通の声の大きさと話せばいいのに」と感じてしまいます。

■整列して並ぶ

電車をホームで待つとき、日本では静かに列に並んで待ちます。電車がきたらそのまま列を乱すことなく、順番に乗らなくてはいけません。

コンビニやスーパーで買い物をするときも、レジ前では、整列をして自分の番を待つようにしましょう。

並ぶ方向や位置がわからない場合は床をみると「こちらにお並びください」や「→→→(矢印)」など、それを示すものが見つけられるかもしれません。

ちなみに、エスカレーターはどちらか片方に寄ります。東京では左に寄って、関西では右に寄ります。

どちらに寄ればいいかわからないときは、あなた以外の人たちがどちらに寄っているのかで判断すればいいと思います。

どちらかに寄る明確な理由は、日本人の私ですら詳しく知りませんが、調べてみると、どうやら急いでいる人のために通路をつくっているようです。

■歩きながら飲み食いしてはいけません

罰せられることはありませんが、歩きながら飲み食いしている人を見ると、行儀が悪いという印象を受ける日本人が多いです。

■家では靴を脱いで、靴は揃えて置きましょう

自宅だけでなく、友人の家に招待されたときなど、靴は玄関で脱いで家に入りましょう。

また、脱いだ靴を揃えて置くと「この人は礼儀正しい人だな」と思ってもらえます。

欧米では「屋内でも靴を履いたまま」というのが一般的ですが、北欧地域やアジアのタイなどでは日本と同じように、玄関で靴を脱いでから入る文化があるようです。

日本ではなぜ屋内で靴を履かないのかというと、靴の中で足が蒸れてしまうのを防いだり、また昔は床に座って過ごす時間も多かったことなどが理由となっています。

日本をよく知らない人が、日本を訪れて日本人と違う行動をとったからといって怒る日本人はほとんどいません。

知らなくてそうしているだけで、仮に間違った行動をしたとしても、悪気があるわけではないということを理解しているからです。

この動画で私が海外の皆さんに伝えたいことは「日本に来たらこうしないとダメ！」ということではありません。

ただ、日本ではこのようなマナーや習慣があり、それをもとに日本人が生活しているということを知っておいてほしいのです。

それだけで、あなたやあなたの家族が日本を訪れたとき、より楽しい体験ができると思います。

あなたの国のマナーや習慣をコメント欄から是非みんなに教えてください。

「日本のマナーと習慣」は、いかがでしたか？

今後の動画制作に活かしますので、コメント欄から感想いただくと大変嬉しいです。

それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

